

# 校名：広島大学附属小学校

所在地：〒734-0005 広島市南区翠1丁目1-1

電話番号：082-251-9882

記載日：平成28年 5月 20日

記載者：神津 弘之

記載者役職：副校長

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

1902（明治35）年、広島高等師範学校の設置が勅令で決定し、翌年10月17日に広島高等師範学校が開校しました。ここに広島大学附属小学校の母体が誕生し、1905（明治38）年4月17日、本校の前身である広島高等師範学校附属小学校が開校しました。

設立当初、附属小学校には三つの使命があるとされました。第一は学生の教育実習を行う練習学校であり、第二は新しい教育理論の可否を研究する実験学校であり、第三は実験された教育理論を実施する模範学校です。第一の教育実習に関しては、附属小学校の開校とともに第1回実地授業練習が開始されました。また、第二・第三の使命に関しても、これまでの歴史の中で多様な実践が積み重ねられてきました。

現在、広島大学には11の附属学校園があり、その基本的な理念と役割は次のように示されています。

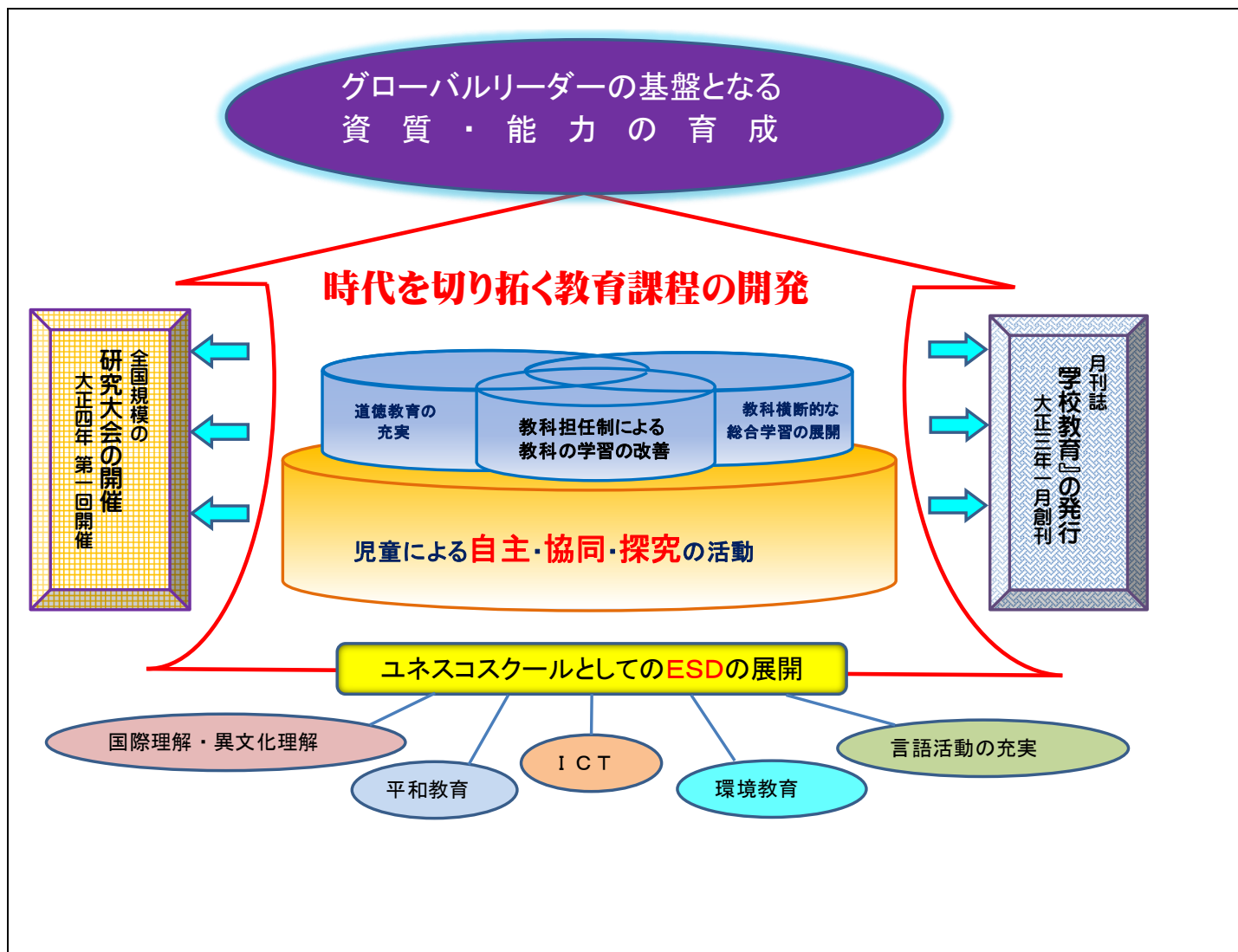
- 個性を尊重しつつ、偏りのない教育を実践し、将来にわたって社会で幅広く活躍できるような児童・生徒を育てる。
- 大学教員の専門的教育・研究活動に接しながら、教育の実践的・先端的研究を行い、その成果によって全国の教育界の先導的役割を果たす。
- 質量ともに充実した教育実習を行って資質の高い教員の養成に協力し、各地の教育界にその成果を反映させる。
- 大学との多面的な連携を通して人にかかわる専門的研究の推進に協力する。

このように、本校の使命は広島大学附属学校園の基本的な理念・役割へと引き継がれつつも、本校の特色・独自性を堅持し現在に至っています。

本校の特色として特筆すべきは、1914（大正3）年に創刊された月刊誌『学校教育』です。戦時中に発刊を中断せざるを得ない時期もありましたが、その歴史は100年を超え、2016（平成28）年4月で1184号に達しています。それぞれの時代において、初等教育の理論と実践に関する論者が積み重ねられ、わが国の教育をリードし続けてきました。

また、1915（大正4）年には第1回の小学校教育研究大会が開催され、現在では本校の研究成果を発表・協議する「研究発表協議会」と、全国各地から研究者・実践者を招いて各教科の今日的課題を協議する「初等教育全国協議会」を開催しています。それぞれの研究大会において、毎年全国から1,000名を超える参会者があり、有意義な協議が繰り広げられています。

本校の校風は、このような伝統を継承しつつも、常に新しい教育のあり方を模索し、先進的な研究に取り組んでいるところにあります。現在も文部科学省研究開発学校の指定（平成26～29年度）を受け、「グローバル化社会を生き抜く子どもの育成」をテーマに先進的な研究を推進しているところです。とりわけ、小学校第1学年からの「英語科」の導入や、低学年「理科」「社会科」の実施に関して鋭意取り組んでいます。



### 貴校の卒業生の活躍状況について：

本校の卒業生の活躍状況について、本校としては特別な追跡調査等は実施していません。しかし、本校の卒業生で組織する同窓会「豊葦会」が会員名簿（卒業生名簿）を作成し、その会員名簿には、氏名・住所・電話番号とともに進学先・就職先が掲載されています。会員名簿は4～5年ごとに改訂されていますが、必ずしも最新の情報は把握できていないようです。また、近年は個人情報保護の観点から、このような個人情報は本人の承諾がなければ掲載されないことになっていますので空欄も目立ちます。

ここ数年、本校から広島大学附属中学校へ進学する児童は30名程度です。以前（50年くらい前まで）は卒業生ほぼ全員が附属中学校へ進学していたのですが、最近は半数にも満たない状況が続いています。その他の児童は、多くが市内の私立中学校に進学しています。

その後の進路としては、正確な数字はわかりませんが、かなり多くの卒業生が県外の大学に進学しています。そして、そのまま県外に就職する者もいれば、広島に戻って来る者もいます。また、最近は外国で活躍する者も増えてきました。職種も様々（教師、医師、公務員、一般企業、など）であり、各界で多様な活躍をしています。

## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

本校勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活動状況について、本校としては特別な追跡調査等は実施していません。

現在、本校教員の約三分の二は、いわゆる交流人事で市内および県内・県外から赴任しています。本校に2～3年、長くても5～6年勤務した後にそれぞれの公立学校に戻っています。そして、その後は広島市や県内・県外の公立学校において、あるいは教育委員会等において指導的立場で活躍しています。

## 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

本校は現在、文部科学省研究開発学校の指定（平成26～29年度）を受け、「ESDの実践・普及の拠点であるユネスコスクールとして、大学、地域のステークホルダーと連携し、国内外における交流を図りながらグローバルに活躍するために求められる資質・能力を育み、国際的視野をもつグローバル人材の育成を図ること」を研究課題としています。

ユネスコスクールとしてのESDの展開として、国際理解・異文化理解、平和教育、ICT、環境教育、言語活動の充実に取り組み、それぞれの学年において先導的な取り組みを行っています。ESDは、様々な教科・活動において展開することが可能ですが、ここ数年は本校の伝統的な宿泊単元に焦点を当て、先導的な実践を積み重ねています。

本年度の第3～6学年で計画している宿泊単元において、ESDを次のように展開しようと考えています。

### ○第3学年「海辺の生活」

これまでの「海辺の生活」においては、水泳学習や海辺の生物に関する学習が中心でしたが、本年度は地元（江田島市）の小学校と連携し、海辺で生活する子どもたちと一緒に活動することを通して、物おじせず相手の話を聴いたり、自分が知っていることを話したりする幅広い学習を計画しています。

### ○第4学年「林間学校」

戦時中、本校の先輩たちは比婆郡（現：庄原市）西城町の寺に集団疎開していました。そのご縁で現在も平和教育の一環としてその寺を訪れ、地元の小学校と交流したりしてきました。本年度はこの交流をさらに拡大し、山間地の動植物についてテーマを決めて一緒に調べたりする活動を計画しています。

### ○第5学年「臨海学校」

以前、本校の「臨海学校」は5泊6日ぐらいで行われ、活動としては水泳学習（遠泳）が中心でした。現在は2泊3日で、水泳学習も行われていますが規模はかなり縮小しています。本年度は、広島大学の留学生とともに海辺での活動（カヌー、釣り、貝殻アクセサリーづくり）を通して交流を深めていくことを計画しています。

### ○第6学年「研修旅行」

本校の「研修旅行」は3泊4日で実施され、行き先は九州であったり関西であったり学年によって様々でした。本年度は兵庫・奈良・京都・大阪を予定していますが、新しい取り組みとしては、京都で留学生とともにグループ別研修を行います。留学生との自主研修の中で留学生と一緒に「日本らしさ」探しを計画しています。

**地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：**

広島市には、広島大学の附属小学校が2校あります。広島大学附属小学校（本校）と広島大学附属東雲小学校です。本校が広島高等師範学校附属小学校として開校したのに対し、附属東雲小学校は広島県公立師範学校附属小学校として開校しました。両校は成立過程が異なりますから、それぞれの目標や使命も異なり、組織や運営も同一ではありません。それぞれが長い伝統の中で独自の文化を育み、地域との結びつきを強めてきました。

広島高等師範学校、その後の広島大学教育学部は広島市の中心部にありましたから、それぞれに関わりのある者は多く、それぞれの思い出とともに本校に親しみを感じ大きな期待を寄せています。広島大学が東広島市に移転した際も、広島大学附属小学校が広島市にあり続けることは地域の切なる願いであったように思われます。

例年、本校への入学希望者は入学定員の6～7倍になります。教育熱心な保護者が多く、保護者自身が本校の卒業生であることも珍しくありません。本校から広島大学附属中学校へ進学するには受検があり、進学できるのは半数にも満たない状況が続いています。しかし、このような状況であるにもかかわらず、本校への入学希望者は後を絶たず、通学許可区域の撤廃を望む声が出るほど本校への期待は大きいと言えます。

**附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：**

附属学校の存在意義として、教育実習の実施は大きな位置を占めています。小学校教育実習入門、小学校教育実習観察、教育実習指導A、小学校教育実習Ⅰ、小学校教育実習Ⅱ、さらには養護実習が体系的に行われています。教育実習は公立の小学校でも行われていますが、本校は教科担任制であるため、専門性という面において公立の小学校で行われる教育実習とは異なっています。教育実習生は各教科の指導に関してより高い専門性を身につけることができます。

本校が教科担任制であることは、本校の教員にとっても各自の専門教科の研究を深める上において大きな役割を果たしています。専門教科の授業を複数の学年・学級において実施できるため、比較研究や継続研究が可能であり、授業研究をより活性化することができます。本校は広島大学との緊密な連携のもと、新任者研修・校内研修等を実施し、教員各自の専門性をより高めています。そしてこれらの成果は『研究紀要』・月刊誌『学校教育』への執筆や学会・研究大会などの発表という形で発信しています。

「研究発表協議会」や「初等教育全国協議会」においては広島市教育委員会あるいは広島県教育委員会と連携し、司会者や発表者を派遣してもらっています。このような交流を通して、市や県の先進的な研究実践者との結びつきを強めています。また、本校の教員が広島市小学校教育研究会に参加し、発表者としてあるいは助言者として招かれることや、学校ごとに実施される校内研修会の講師を依頼されることもあり、直接的・間接的に地域に貢献しています。